

## 米子市立山陰歴史館（旧米子市庁舎）

施設名	米子市立山陰歴史館（旧米子市庁舎）		
概要	RC造、3階建 建築面積 706.7 m <sup>2</sup> 、延べ床面積 2,073 m <sup>2</sup> （設計仕様）		
所在地	米子市中町 20	竣工	昭和 5 年(1930)年
訪問日	2020 年 6 月 13 日	訪問者	江原恭二



### 【施設の概要】

米子市は昭和 2 年（1927 年）市制施行。当時は木造 2 階建ての庁舎を使用していた。昭和 4 年、火災で焼失。急遽、新庁舎が必要となった。当初は木造コンクリート造総延坪数 750 坪（2,475 m<sup>2</sup>）で計画されたが<sup>\*1</sup>、最終的には鉄筋コンクリート造で設計された。設計者は佐藤功一（代表作：早稲田大学大隈講堂）。関東大震災で組積造が被害を受け、鉄筋コンクリート造の耐震性・耐火性が評価された結果と推測される。（当時、情報力・解析力があつたかは不明だが、選択肢・決断力は高く評価される）

### 【訪問記】

令和 2 年度 米子市立山陰歴史館企画展『米子市役所旧館 90 年の歩み』が開催されており、企画展関連事業「山陰歴史館見学ツアー」が実施され参加した。当日は、学芸員の同行があり普段非公開の部分も見学が可能となった。

旧米子市庁舎新築工事関係資料<sup>\*2</sup>（米子市役所蔵）によれば、本建物の設計仕様は表-1 に示す通りである。

- ・基礎は深さ 1.82m 総掘、床版+繫梁による浮形基礎とある。掘削土量は 1,286 m<sup>3</sup>と算出される。ほぼ人力の時代であるが、掘削・運搬・掘削土の利用など大工事だったと推測される。
- ・1 階床には目立つ不陸や沈下の形跡はなく、適切な設計・施工と考えられる。
- ・鉄筋コンクリート構造の耐震設計がなされていることも興味を引いた。
- ・外装、内装では左官による人造石塗やモルタル仕上げが主体であり、当時の左官職人の手仕事の精密さを感じた。工程表によれば、躯体工事期間以上に外部・内部の左官工事期間が予定されていた。

階段回りのテラゾー仕上げ、軒先部分に施された人造石の垂木を模した造作に驚かされる。外装の人造石塗仕上げおよび小叩き部分は多少のひびわれが認められるが壁面として重厚な外観を保っている。

松江市 『出雲ビル』(T14)、『ごうぎんカラコロ美術館』(T15) では、建物外装には花崗岩が使用さ

れている。上部はモルタル+人造石による仕上げになっている。本建物では、外装には石材は使用されていないが重厚な仕上げとなっている。

- ・塔屋（ペントハウス）の鉄骨小屋組は当時のままのように見受けられた。
- ・市庁舎完成後、増築や改装が行われているが、時期や内容は定かでない。しかしながら、現在の天井裏には当時の壁・天井仕上げが認められる。
- ・1階両妻面に入出口があったが閉鎖されている。鋼製サッシは更新されている。ペントハウス小窓はアルミサッシに更新されている。

機会があれば、保存されている資料の確認、現地の詳細確認（床下、天井裏など）により、当時の施工の様子が確認できるかもしれない。

表-1 建物設計仕様の概要

●構造概要	基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤面下深さ 6 尺（1.82m）総掘、砂層上に割栗地形</li> <li>・「鉄筋コンクリート」造繫梁送床版にて構成する浮形基礎</li> </ul>
	柱床壁体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震設計に依る「鉄筋コンクリート」造</li> <li>・内部間仕切りの一部 木造軸組木摺り下地とする</li> </ul>
	屋根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央塔屋鉄骨小屋組 銅板葺き</li> <li>・其の他は「鉄筋コンクリート」造陸屋根にして防水工事を施す</li> </ul>
	階段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全て耐震設計に依る「鉄筋コンクリート」造りとする</li> </ul>
●仕上げの 大要	外壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表面白色人造石塗及び硬質「タイル」張り</li> <li>・腰部人造石小叩き仕上げとし</li> <li>・裏側「モルタル」塗り目地切 「ストーンテキス」吹付仕上げ</li> </ul>
	天井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事堂「セロテックス」張り</li> <li>・防音施設其の他は「コンクリート」下地又は木摺下地 漆喰仕上げ</li> </ul>
	内部壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の一部階段腰部「モルタル」塗りペンキ吹き付け</li> <li>・其の他は漆喰塗り又は主要室は壁紙張り仕上げとする</li> </ul>
	床	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関広間、階段室は人造石研ぎ出し仕上げ</li> <li>・各事務室は「モルタル」塗り「リノリューム」敷及び米松縁甲板床張り「ステイン」塗り</li> <li>・其の他は「モルタル」仕上げとする</li> </ul>

【見学案内】 米子市立山陰歴史館 〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 Tel.0859-22-7161

- ◆開館時間 9:30 - 18:00 （最終入場は 17:30） ◆常設展:入場無料
- ◆休館日 火曜、祝日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）
- ◆駐車場 米子市役所駐車場（駐車券持参で2時間無料）

※詳細は HP⇒<http://www.yonagobunka.net/rekishi/>

※1 出典：『米子経済九十年の歩み』 米子商工会議所編 1981年 P.P.107 【米子市立図書館】

※2 出典：『新修 米子市史 第十巻 資料編 近代』第二章 経済 P.P.357-368 【米子市立図書館】

写真-1 米子市立山陰歴史館の様子



3階 貴賓室前 装飾柱が設けられている。  
床高さを3段分高くし、空間を切り替えている。



階段手摺 テラゾー（人造石研ぎ出し）仕上げ  
職人の手仕事



屋上 屋根スラブは露出防水で改修されている。  
この部分がアルミサッシに改修。



軒先の細工 人造石塗仕上げ  
下地が興味深い

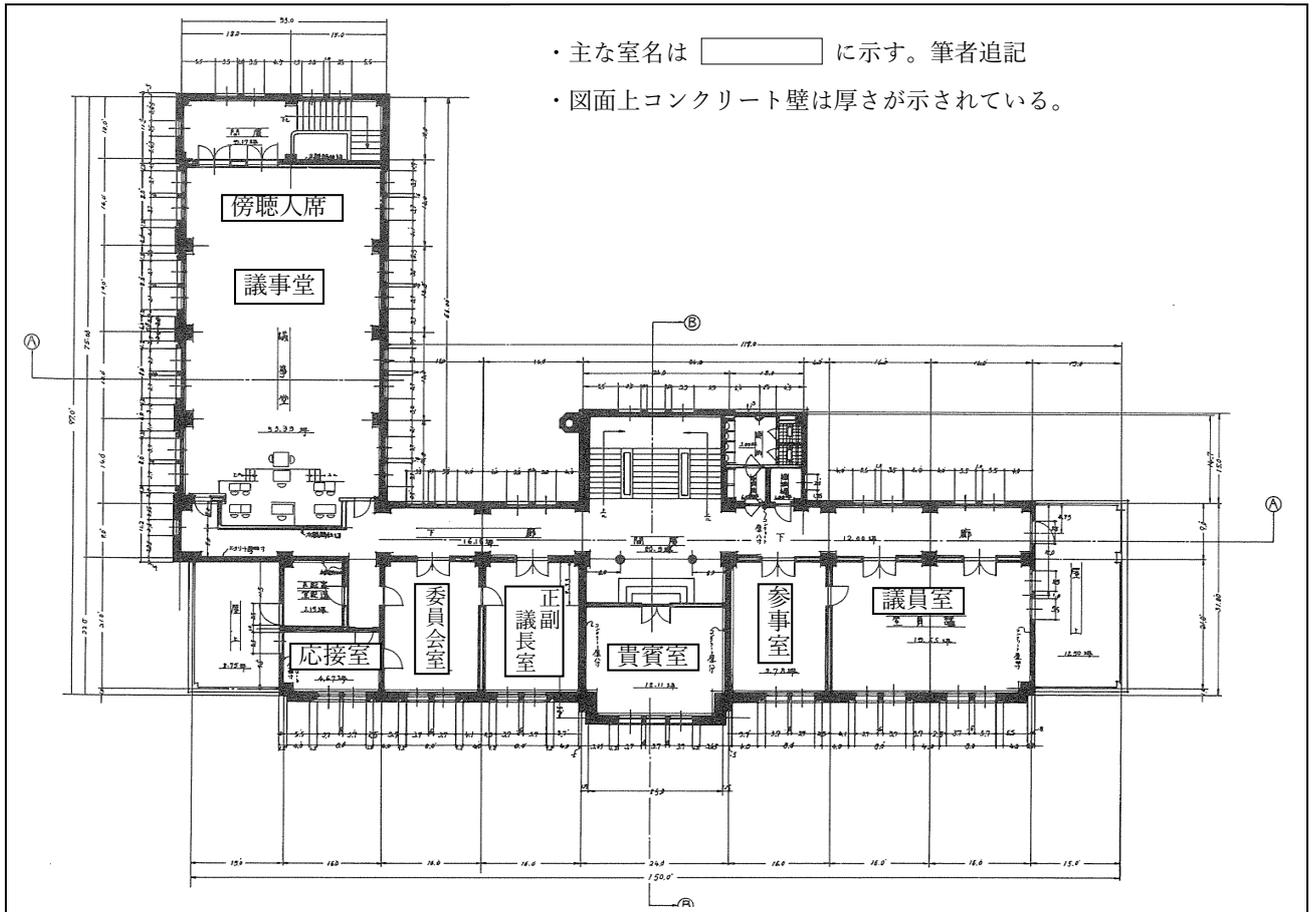


外壁 上 部：タイル張り  
中間部：白色人造石塗り  
腰 部：人造石小叩き仕上げ  
※壁面全体に凹凸やはらみは認められない。



外部詳細  
中間部：白色人造石塗り  
腰 部：人造石小叩き仕上げ

図-1 米子市立山陰歴史館史料



設計図 3階平面図<sup>※3</sup>



米子町庁舎大正終り頃（昭和4年焼失）<sup>※4</sup>  
 米子市立山陰歴史館蔵



竣工当時の様子と思われる。<sup>※4</sup>  
 和服姿の市民の往来。道路幅は狭い。

※3 出典『鳥取県の近代化遺産』鳥取県文化財保存協会 1998年3月 P.156-157

※4 出典『写真が語る米子の歩み』発行米子市 編集米子市立山陰歴史館 2016年1月 表紙

※3※4 両資料とも【米子市立図書館】